

平成30年度 第2回 全校研究会報告

日時 平成30年 7月 30日(月) 9:30～16:30

研究協力者 大和大学教育学部 教授 落合 俊郎 氏

今年度本校では、文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業(次期学習指導要領に向けた実践研究)」の研究指定を受け、研究テーマ「地域社会との連携協働の下で創造する“喜びをともにする授業”～多様性は可能性～」に基づき、明日の向日葵が丘の教育を考えるプロジェクトが中心となり、全校で研究を進めています。

第2回の全校研究会では、前半は各学部の授業実践の報告、研究に関わる各分掌の活動報告を行いました。後半には、大和大学教育学部の落合俊郎先生から指導助言をいただいた後、「新学習指導要領の背景を考える」というテーマで御講演をいただきました。

小学部の報告 研究テーマ「小学部の子どもたちの実態や実践の交流を深め、子どもの主体性について考え、授業の充実を図る。」

◎遊びの指導「カエルンジャー ヘ・ん・し・ん」

単元のテーマの中で関連付けた学習のつながりと繰り返しで、期待と見通しをもてる活動を設定したことで児童の主体的な姿につながりました。衣装作りや車作りなど個々の活動から、玉入れや綱引きなど友達と協力することで達成できる活動へと広がっていきました。また、友達とやり取りをする場面を設定することで、友達と力を合わせて頑張る姿や、友達に「がんばれー」などの言葉かけをする姿が見られるようになりました。



◎生活単元学習「世界旅行に行こう」

「世界各地でだれかのために何かをしよう」というテーマで授業を進めました。困っている人を助けるために絵の具で花を咲かせたり、ホットチョコレートを作ったりする活動に取り組みました。「ありがとう」と言われることへの嬉しさから、苦手なことにも挑戦する姿が見られました。繰り返して取り組める活動を設定することで、期待と見通しをもって授業に取り組むことができました。一つの活動に個々の児童の実態に合わせて教具を用意することで活動への取り組み方を児童が選択でき、主体的に活動に向かう姿につながりました。



学部研究会では、児童の主体的な姿を交流し、その姿を導き出した要因は何かということを交流しました。前年度の研究から見えてきた主体的な姿を導き出すための4つのポイント「アセスメント、ニーズの把握」「興味関心、好きなことを増やす」「わかって動ける、できる環境設定」「人が変わっても同じ支援を行う」ということに加えて、「学習同士のテーマのつながり」「繰り返しのある単元構成」という新たなポイントを導き出したことを報告しました。

中学部の報告 研究テーマ「中学部らしさを基盤とした、主体的・対話的で深い学びのある授業実践」

◎生活単元学習「料理を科学する研究所」

教科別の指導と生活単元学習がリンクするように年間指導計画を立案しました。生徒が研究員になり、ピザ作りを行いました。研究所にちなんで、白衣を着るなど授業の設定を大切にすることで、生徒の授業に対する興味関心を高めることができました。中学部らしさという点では、「自分の思いを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら友達と一緒にペアで活動する」というねらいを設定しました。生徒自身が考えるのを待つことで、チャレンジして失敗しても良い環境作りができました。



◎生活単元学習「作品展をしよう～紙すき～」

道具や物に向かう力をつける取組を大切に計画しました。中学部らしさの視点は、「クラスの友達と一緒に行動する」「クラスの友達に関わる」というねらいで設定しました。パルプちぎり、パルプ液作りなど活動の中で、友達の様子を見てやってみようとしたり、友達がこぼした液を掃除したりする姿が見られました。関わりを生み出す設定により、お互いで教え合ったり、友達が活動を終わるのを待ったりする等、友達を意識する様子が見られました。



◎生活単元学習 「ステキな雨の日」

生徒のだれもが楽しめるアクセスシビリティーの視点での設定を意識しました。中学部生らしさは「友達同士の中で「～さんがやっているから頑張ろう」「苦手なこともやってみよう」など、励まし合い、高め合える姿」を目指しました。ICT を活用し、雨の音が流れる中で絵本の読み聞かせを行ったり、レインスティックを用いたり、雨を感じるような教具を用意したことで、教具に向けて顔を上げたり、手を伸ばしたり等、生徒が五感を使って体験的に雨を感じることができました。教室での活動だけでなく、雨の日に外に出て実際に雨に触れる経験もしました。



学部研究会では、生徒の発達、特性に応じたつきたい力があり、ねらいにあった取組を行うことで生徒の学びにつながり、授業の改善や課題が見えてくることや、生徒の実態や活動に応じて対話の相手が変わるといったことなどが話し合われました。また、生活単元学習の捉え方、ねらい、活動内容、教科別の指導との関係性を整理する重要性を報告しました。

高等部の報告

研究テーマ「ねらいと適切な手立てを明らかにした授業作り」

前年度にまとめた「高等部の時期に大切にしていること・育てたい力表」を活用し①事前に各グループでどの力を育てたいのかを考える②育てたい力に基づき、授業のねらいを設定する③ねらいを達成するための実態に合った手立てを考える④授業改善シートを使用して議論を深める、という流れでの研究について報告しました。

◎教科別の指導 「音楽」

「曲調に合わせて歌う」「自分の役割がわかり、ペアの友達とリズム遊びを楽しむ」というねらいを設定しました。授業の流れを毎回同じにし、生徒にとってわかりやすいことを意識して進めました。歌い方や表現の仕方や伝え方の工夫、ボリュームの調整を視覚的に提示するなど、生徒が「難しいけどやってみよう」と思える設定を行いました。身体表現は、繰り返し取り組む中で二人で違う動きをし、リズム体操ができるようになり、次へ発展できる活動になりました。



◎教科別の指導 「保健体育」

毎日帯状で年間とおして取り組むことで見通しがもてるように設定しました。「体を動かし、体力の維持や向上を目指し、健康な体づくりを目指す」という育てたい力に基づき、棒体操、ダンベル体操、体幹トレーニングなどに取り組みました。学部研究会では、「わかりやすさ」「言葉かけの精選」「主体性」「人間関係の形成」「見通しと心理的な安定」「環境調整」「授業の組み立て」という7つの視点が見えてきました。また、何でも手立てがあればよいということではなく、実態に合った手立てが必要であるということが確認されました。



◎生活単元学習 「しごと」

箸作りの活動で「モデルを見て、カンナの操作をすることができる」「カンナをかけた箸に紙やすりをかけることができる」「課題が増えても、活動に見通しをもつことができる」というねらいを立て、取り組みました。生徒が主体的にできることや、わかってできることを大切にしました。生徒が見通しをもてるように活動量や内容、手立て、環境の工夫を行いました。



明日の向日葵が丘の教育を考えるプロジェクトからの報告

- ◎ 教育課程の整理、改善に向けては教務部が研修・研究部と連携し、授業改善から見えてきた各学部で大切にしたいことを踏まえ、12年間でつながりのある教育課程の改善を進めることについて検討しています。
- ◎ 進路指導部の視点から、生徒が社会に出て必要となる力を育てられているか検証しながら、社会との接点を考慮した教育課程の検討が大切であることを確認しました。

◎ 前期に地域社会連携部が中心となり実施した、地域社会とつながる授業の実践例や活動に活用できる可能性のある地域社会資源の一覧を提示しました。



小学部 たけのご掘り
協力 長岡京生活会議・生活学校



中学部 手作りプレゼントをつくろう
協力 長岡京市立長岡第五小学校



高等部 箸作り
協力 高野竹工株式会社

落合先生からの指導助言

各学部の報告について、改善のポイントを助言いただきました。

- ・子どもがどう主体性をもってしたのか、子どもがどのように変化したのかがわかることが大切である。
- ・評価については「授業の評価」「保護者の評価」「児童生徒の評価」が必要であり、何がどうなったかをきちんと評価することが重要である。
- ・地域社会との連携については、学校で戦略を立て、組織的に動いていくことが必要である。
落合先生に御助言いただいたことを、今後の研究や学校運営に活かしてしていきます。

落合先生 御講演「新学習指導要領改訂の背景を考える」

「新学習指導要領改訂の背景を考える」というテーマで、共生社会や共助社会の理念が生まれてきた背景や、現在の社会状況、今後の社会の動きや変化などの様々な視点から新学習指導要領改訂の流れをわかりやすく教えていただきました。少子高齢化社会、格差社会、自然災害など、日本を取り巻く状況の中で「自立」「創造」「協同」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築が重要であること、また、ベーシックインカムという新たな考え方を詳しく御教示いただきました。加えて、広島の特設支援学校や広島大学の図書館での職場実習等の実際の取組を通して社会とどのようにつながっていくのかという例を具体的にお話いただきました。

今後の共生社会や共助社会の構築に向けて、特別支援学校の児童生徒達が、社会の担い手としてどのように社会とつながりをもっていくのかということ、そのために学校でどのような力をつけるのか、学校がどのような教育を行うのかという学校がすべきことを改めて考える貴重な機会となりました。

◎感想用紙より



新学習指導要領が作られた背景を国内だけでなく、国際的な視点からも知ることができました。「インクルーシブ」という言葉も耳にしていたのですが、「インクルーシブ教育」と「インクルーシブ教育システム」の違いなど、新しく学べたことが多くありました。



今後のことを考える良い機会になりました。地域社会へ移行するにあたって、高等部教育で何をすべきか改めて考え、生徒たちの将来につながる支援、指導をいっていきたいと思います。



講演を聞き、障害のある人が生き活きと働ける場所を新しく見つけ出し、雇用を創造していくことの大切さを学びました。今後の日本についての話は驚くことが多かったですが、教師自身が今後についての知識をもって教育に携わることの重要性を感じました。



新学習指導要領が、どのように改訂されたのか、将来の状況を具体的に示していただいたことにより、教育は何を求められているのか明確になりました。各教科、校内外、地域社会とのつながりなどのキーワードを2学期以降実践のポイントにしていきたいです。